環日本海交流国際シンポジウム・基調講演

北東アジア環日本海地域における国際物流の将来構想

三 橋 郁 雄（むつ小川原開発㈱ 常 務）

1．基本的考え方

我が国が戦後急成長し世界有数の経済大国になり得たのは、社会が平和裏に推移し、国民の英知と労力のベクトルを、富の蓄積、経済の発展に振り向けることが出来たからである。戦争状態が発生しておれば、国民のエネルギーの大半は、富の消耗と破壊へと向かっていたであろうことは想像に難くない。この平和は天から降ってきたものではない。国民の強い意志と協力により産み出したものである。従って今後においても繁栄の道を歩むのであれば、平和を「作り出すこと」に最大の重点が置かれねばならない。

日本の平和に直接関係するのは北東アジア情勢である。この地域の貧困と混乱は我が国の平和を脅かす最大の要因になりうる。日本海が「緊張の海」として荒波が立てば、それは短時間に我が国に到達し、我が国社会を激しく揺さぶることになる。日本海を「友好の海」としなければ、日本の繁栄は有り得ない。貧困と混乱を防止するには北東アジアの経済を発展させ民生の安定を図ることである。北東アジア対岸諸国の経済発展は日本の平和にとって極めて大切である。

北東アジアの経済発展は日本に平和をもたらすだけではない。日本との交流、交易の増大は日本の経済、文化を更に大型化高度化し、成長を高めてくれるはずである。加えて、北東アジアには天然ガス等の豊かなエネルギー資源が存在し、21世紀の人類生存のための貴重な供給源として期待されている。この面からは日本は将来頼らなければならなくなる可能性が大きい。その際には双方が十分に理解し合える良好な関係になっていなければならない。このように隣国、東アジア地域の経済発展は我が国にとって、将来に亘って繁栄を享受していくために極めて重要な課題である。

北東アジアから見ると、貧困と混乱からの脱却のためには、経済力の大きな日本経済に頼ることが産業振興の早道の一つであろう。日本が戦後、米国市場との交流の中で富の蓄積が可能となったように、外国企業にも自由化された日本の巨大市場は、北東アジアの企業に成長の場を与えるに違いない。これが具体化すれば次の段階として、東南アジアに見られるように、相互に企業の進出が進み、国際水平分業も進展することになろう。こうして相互依存関係が深まれば、更に我が国の平和繁栄の基盤は確固たるものになっていく。

このような状況を作り出していくための様々な努力が試みられているが、まだまだ北東アジア情勢は暗雲の中にある。2000年に予定されている日露政府間の平和条約締結が成功すれば、このような平和の潮流が勢いを得ようが、周辺情勢はなお厳しいものがある。しかし経済界、自治体、大学、NGO等々様々なレベルでの交流は年々盛んになっており、相互理解は進みつつある。Tumen River Area開発に見られるように国際機関の活動も積極的である。これらの力

が各国政府の譲歩と協力を引き出し、各国政府のベクトルの向きを同じにして、共通の課題に資金と労力を集中する協力体制が整うならば、日本を含む北東アジアはその人口規模、地理的位置からして世界経済の牽引車になることも不可能ではない。

このような方向は世界的に見れば時代の流れである。既に世界の大部分はボーダーレス経済に近い状態にある。人流、物流、情報流のグローバルネットワークは広く世界を覆い、各国企業は多国籍化してしのぎを削っている。北東アジアを如何にスムーズにこの潮流に参加させていくか、これが北東アジア経済発展の鍵である。このためには当事者国の中で最大の経済力を有する我が国が、北東アジアの経済発展をどのように進めて行くべきか、明確なビジョンを提示すると共に関係各国と協調してその具体化に邁進する時期に来ている。

そのためには様々な分野のアプローチが必要であるが、地域開発という観点から考えるとまず構想すべきは、地域内主要都市間を連結する動脈としての物流ネットワークであり、交流インフラの整備である。なぜなら経済繁栄には大規模且つ容易な交流の存在が前提であるからである。

以下予定している講演の目次を記す。

2．北東アジア環日本海地域物流ネットワークの規状と課題

3．北東アジア環日本海地域における国際物流ネットワークの将来構想

北東アジアの経済発展を物流ネットワークの観点から促進、支援していく際、まず考えるべきは、経済力の巨大な東アジア太平洋地域との接続確保であり、地域内交流の円滑化である。また当該地域はユーラシア大陸の横断の入り口を形成しており、このメリットも十分活用する必要がある。更に、物流ネットワークが機能するためには、根幹的ターミナル都市が存在し、物流ネットワークの中枢機能を果たす必要がある。この都市は国際交通の要衝になる。

(1) 国際物流ルート構想と「国際交通の要衝」都市構想

(2) 構想の概要

(3) 物流ルート構想

①日本を始めとする東アジア太平洋地域との交易を円滑に進めるためのルート

②大陸地域間の交流を円滑に進めるためのルート

③外貨獲得に大きく貢献するルート

④世界経済の中心である北米との接続を図るルート

(4) 国際交通要衝都市建設構想

①Tumen River Areaプロジェクト

②北東アジア交流の拠点都市としての新潟発展構想

4．特に優先的に取り組むべき課題

1）我が国と極東ロシアを結ぶ国際フェリー航路の開設

2）シベリア横断鉄道によるトランジット貨物の取扱量の拡大

3）我が国日本海側地域と北米とを結ぶ国際コンテナ航路の開設

4）中国東北部と日本海を結ぶ陸上ルート及び海上航路の開設

5）北鮮と我が国日本海側港湾との間のコンテナ定期航路の開設